

音源の比較試聴(34)
—ベートーヴェンの荘厳ミサ曲—

1. 始めに

前報(33)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも延べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じマスター音源のアナログ盤と STAGE+からの配信を比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

ルートヴィッヒ・フォン・ベートーヴェン 荘厳ミサ曲

ドイツグラモフォン SMG1370/71

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

配信は STAGE+から上記と同一の曲を選択します。

ルートヴィッヒ・フォン・ベートーヴェン 荘厳ミサ曲

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase
STAGE+

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、レーベルに対応したイコライザー特性で聴いていきます。

この盤は 1966 年の録音ですが、予想外にしっかりした音質で、その名のとおり荘厳で壮大なミサ曲をカラヤンが展開していきます。合唱もオーケストラも力強く、ソリストの歌唱も伸び伸びとしています。合唱などは、どこか交響曲第 9 番を思わせるような壮大さがあります。

STAGE+の配信は、1966年の録音のマスターからデジタル化されたものですが、意外にフレッシュな音質で、おおむね上記アナログ盤の印象を受け継いでいますが、

若干淡泊ですっきりとした感じもします。

4. まとめ

アナログ再生、STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくなっており、アナログ盤は、その名のとおり荘厳で壮大なミサ曲で、合唱もオーケストラも力強く、ソリストの歌唱も伸び伸びとしています。STAGE+の配信は、意外にフレッシュな音質で、おおむね上記アナログ盤の印象を受け継いでいますが、若干淡泊ですっきりとした感じもします。

以上